



# 池田カトリック新聞WEB版

2023年12月号  
(598号WEB版)

## キリストの受難 カトリック池田教会

主任： 中村克徳司祭

住所： 〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL： 072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



### 本号の記事の主題など

巻頭言「12月の物語」	来住英俊 神父	ノノイ・プラザ神父の近況 その3
12月のガラスケースのみ言葉と解説	中村克徳 神父	教会の草花・樹木に水遣りと剪定
池田教会が七五三を祝う		みんなの談話室
10月・11月 大人の日曜学校だより		『完全版下山事件最後の証言』（平成一九年）一トラウマとしての戦後混乱期
待降節黙想会の開催のお知らせ		アルファ・コースの思い出
4年ぶりのガレージ・セール		俳句 2句
「ドレミの会」からのお願い		今月の表紙の絵について
死者のために追悼し、復活を祈るミサ		宝塚黙想の家からのお知らせ

私の若い頃は、12月と言うと「忠臣蔵」でした。映画やドラマで新作が何度も作られ、旧作がテレビで再放映されました。武装した屈強な男たちが白髪頭の老人を追いかけて回して殺すという物語があれば日本人を引きつけたのは、今になってみると不思議な気がします。討ち入りに至るまでの艱難辛苦に耐える姿、自己犠牲が心に触れたのでしょうか。そして、クライマックスの降り積もる白い雪と赤い鮮血のコントラストが印象的です。

世界中のクリスチャンにとっては、12月と言うとクリスマス映画の季節です。アメリカでは「素晴らしきかな人生！」というフランク・キャプラ監督の名作(1946年)が毎年、定番のように放映されるそうです。そして、もちろん、「クリスマス・キャロル」。ディケンズの小説が原作ですが、いくつもの映画が製作されています。

クリスマス映画というのは、イエス・キリストの降誕を祝う良き日に、疎遠になっていた人々が和解するというストーリーです。降り積もる白い雪の中で、和解が進行します。家族や友人と和解するのですが、そこには自分自身の過去との和解も含まれています。「クリスマス・キャロル」のスクルージ老人は頑なになっていて周囲の人ともうまくやれませんが、そこには自分自身の過去が受け入れきれないことも原因になっています。クリスマスの精霊に導かれて、辛いことばかりと思い込んでいた自分の過去にも善い人との出会いがあったことを思い出します(特に優しかった妹)。そして自分の周囲にある恵まれない人々に

も思いを寄せるようになります(特に足の悪い少年ティム)。

和解はキリスト教の最大のテーマです。「十字架を通して二つのものを一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を減ぼしてくださったのです。」(エフェソ2章16節)

家族で一緒に同じ映画を見るということは少なくなってきたようです。パソコンでNetflixから配信される映画を一人で鑑賞するというスタイルがこれからは多くなるでしょう。しかし、今ならまだDVDを再生できるテレビが家庭にあると思います。この降誕節に、ご家族を誘ってクリスマス映画の名作を一緒に見ませんか。「クリスマス・キャロル」ならジョージ・C・スコットが主演したバージョンがおすすめです。貧相な老人(実は金持ちです)として描かれることの多いスクルージが、このバージョンでは堂々たる紳士になっています。私にはこの方が納得できます。「クリスマス・キャロル」の色々なバージョンにはそれぞれ工夫があつて、見比べるのも楽しいです。家族を誘う前に、自分で見て確かめるようにした方がよいでしょう。

「キリストに代わってお願いします。神の和解を受け入れなさい。」

(第二コリント 5章20節)

12月のガラスケースのみ言葉  
今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった  
ルカ2章11節

## 12月のみ言葉についての解説

中村克徳 神父

私がまだ小学生の頃、12月に入ると新聞の折り込み広告が気になって、毎日欠かさずチェックすることを怠りませんでした。それは子供向けの玩具のチラシが気になって仕方がなかったからです。チラシを隈なく確認して、その年のお目当ての玩具を見つけると、その写真に密かに印をつけておくのです。すると24日のクリスマス・イヴの夜に、サンタクロースがやってきて玄関の呼び鈴を鳴らし、ほしかった玩具を手渡ししてくれました。お目当ての玩具を手に入れた私は大喜びで、願いをかなえてくれたサンタクロースに感謝したものです。

もちろん高学年にもなると、玩具は両親が買ってくれたものであり、サンタクロースに扮した玩具屋の店主がクリスマス・イヴの日に配達してくれるのだと気づくのですが、玩具欲しさに小学校を卒業するまで気づかないふりをしていました。幼い私にとってクリスマスとは、おねだりすることなく玩具を手に入れられる最高の日となっていたのです。

では、イエス様がお生まれになった2000年前のベトレヘムで起きた出来事を振り返ってみましょう。最も大きな喜びに包まれたのは誰だったのでしょうか。ルカ福音書には、羊飼いたちが野宿をしながら夜通し羊の番をしていたことが綴られています。羊飼いは当時のあらゆる職業のうちで、最も過酷な仕事として知られていました。夏の太陽がじりじりとあたりを照らす炎天下でも、凍てつくような冬の寒さの中であっても、昼夜を問わず羊を外敵から守るために交替で羊の

番をしなければならなかったからです。そのため、自ら進んで羊飼いの仕事を引き受けようとする者はなく、食べていくためにやむを得ずこの仕事に就く人がほとんどでした。そのような環境は彼らの健康を蝕み、短命のうちに人生を終えていったのです。彼らにとっての唯一の希望は、いつか救い主が現れて、自分たちの窮状を見て憐れに思い、根本から状況を作り変えてくれることでした。

彼らがいつものように羊の番をしていた冬の日の夜のことです。突然光り輝く天使が現れて、彼らに言いました。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ、主メシアである」。彼らは驚きつつも家畜小屋として使われている洞窟へ行ってみると、若い夫婦と生まれたばかりの幼子を見つけたのです。羊飼いたちは主メシアである幼子を礼拝した後、神に賛美を捧げながら再び羊の番に戻っていきました。彼らはこの場面しかルカ福音書に登場しないのですが、彼らは自分たちの人生に一縷の希望を見出したに違いありません。

人間にとっての本当の喜びとは何でしょうか。それは、欲しい物を手に入れた時に感じる希薄なものではなく、人生を根本から変えてくれるような出来事に直面した時に、靈魂の根幹から沸き起こってくるものではないのでしょうか。今年のクリスマスは、物質的な豊かさに望みを置くのではなく、人間性そのものを豊かにしてくれる神からの豊かさに希望を持ちたいものです。

## ワールド・ユース・デイ Lisbon 2023 に参加して その3

島田祐祈

こんにちは、大学4回生になりました島田祐祈です。3ヶ月連続となりますが、三島陽君、四倉夏君と参加してきたワールドユースデイの報告をさせていただきます。先月は野宿をしているところで終わっていると思うので、その続きです。

## 8月6日

日本と気温はほとんど変わらないポルトガルといえど、夜は冷え込みますし、海際での野宿ということもあって、寒さで朝早くに目が覚めました。おかげで閉幕ミサにむかうパパ様を間近で見ることができました。前日の晩は人だかりがすごくて「なんとか見える」という程度でしたが、朝はみんな眠っていることもありしっかり見ることができました。ミサでは教皇様は「イエスを心に迎え入れ、イエスのように愛すること、それこそが私たちに輝かせる」「イエスの言葉に耳を傾けること」「恐れず行動すること」を強調されていました。もちろんスペイン語もイタリア語もわかるはずがないので、あとから翻訳を読んだだけですが、強調されたい部分は伝わってくる表現力豊かなお説教でした。ミサ後気温が上がり始めたことと寝不足とが重なり、体調不良者も出ました。そのうえ地下鉄は入場制限がかけられるくらい、ごった返し続けていました。前日歩いた時間と同じ時間をかけて、這々の体で宿舎に帰り着きました。ちなみにイタリア人を始めとした海外の若者はこの日のうちにファティマに巡礼に行く（しかも歌い踊りながら向かっていくという）鬼の体力を目



の当たりにして衝撃を受けました。

### 8月7日

ひ弱な日本巡礼団は日を改めて、ファティマ巡礼に向かいました。宿舎からバスで2時間くらいの距離でした。前日からポルトガルはこの夏一番の暑さということで、「灼熱のファティマ」という思い出になりました。ファティマは第一次世界大戦中のポルトガルで、3人の牧童の前に聖母が出現した地です。当時は樅の木の上に出現したそうですが、今はとても綺麗に整備されていて、出現場所に建てられた教会や、牧童の一人の遺体が安置されている教会を巡りました。また、ファティマの聖母といえ、王冠を被っていることが有名ですが、その313個の真珠と2679個の宝石でできた金の王冠を博物館で見ることができました。

(もっとも説明書きは読めない、レプリカか本物かはわかりませんが、僕は本物だと信じています) その後は、1万人以上は収容できそうなほど広い聖堂でミサに預かり、木陰で黙想して(休んで)帰りました。

### 8月8日

最終日ということで海水浴に行ったり、お土産を買いに散策したりとリスボンの街を満喫しました。翌朝4時に宿舎を出発しポルトからイスタンブール、そこで8時間のトランジットを経て8月10日の午後7時羽田空港に着陸しました。

さて、僕がWYDで得たものは、一生分の熱量です。同じ信仰を持つ世界中の若者がこんなにもイエス様を求めている、そのことに衝撃を受けました。歌って踊って叫んで



自分たちの信仰を表現する、そのパワーを浴びたことは、なににも代えがたい経験です。どこで役に立つかはまだ分かりませんが、必ずこれからの人生に生きてくると思います。なにか次の一步に勇気が欲しいとき、この熱を思い出せば、良い方向に自信を持って進んでいけると思います。

慣れない乾燥した気候の下で長時間の歩行移動のために体調不良を起こして、行動をともした巡礼団の多くが全行程に参加できませんでした。その中でも僕たち3人はポルトガルの間は元気に行程を全うすることができました。これは、神様のお恵みと皆さまのお祈りのおかげに他なりません。たくさんの方の支えをいただき、感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

## 10月・11月 大人の日曜学校だより 研修委員会

### 10月29日（年間第30主日）

「あなたの神である主を愛しなさい。隣人を自分のように愛しなさい」

マタイ22章37～39節より

二ヶ月ぶりに開催された大人の日曜学校では、律法の中で最も重要な掟についてイエス様が語った箇所について語り合いました。

たった二つの掟ですが、それでも参加者の皆さんそれぞれの感じ方、受け止め方が違う事にあらためて自分の視野の狭さを感じるとともに、ほかの方の意見を理解し耳を傾けることは、「隣人を自分のように愛しなさい」（マタイ22・39）に通ずる部分もあるなど、自分の意見にとらわれ傾聴出来ない自分に恥ずかしさを感じながらも、皆さんの思いと笑顔を分かち合うことが出来ました。

最近『神に愛されている』ということについて考える事がよくあります。私たちは神に愛されているということについて言葉としては知っていますが、本当に実感しているのでしょうか？

このふたつの『・・・愛しなさい』（マタイ22章37, 39節）という愛の掟が実行出来ず、「主が自分を愛するように強制している」、「隣人を愛するなんて無理。」と、心が感じてしまうときは、『神に愛されている』ことを見失っている時なのではないのでしょうか？

『神から愛されている』と実感出来ているときは、この二つの『・・・愛しなさい』（マタイ22章37, 39節）を受け入れる事ができるときだと思い、また、神から愛されているという喜びこそが、自分の心に愛を満ち溢れさせ、この二つの愛の掟を実行させる、溢れる原動力になるのだと思います。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いをつくし」（マタイ22・37）というみことばは、私たちへの掟の言葉となる前に、本当は神がどのように私たちを愛して下さっているかを説明しているみことばであり、イエス様がこの二つの愛の掟を示して下さったこ

とこそが、父である神が私たちをこのように愛しているという証であると受け取ると、自分の心の杯に神の愛が満ち溢れてくるような気持ちになります。

日ごとの人との交わりの中で、神から愛されていることを思い出し、自分のエゴに捉われず、神の器（無私）となって、この溢れる愛で隣人を愛することが出来ますように。

### 11月19日（年間第33主日）

福音：マタイ25章14～30節

この福音箇所は今まで少々負担に感じるころであった。ましてや（主人が）僕に預ける1タラントが20年分の賃金と知って、正直「とんでもない！そんなに預けないでください」と思った。そんな少し重い気持ちでこの集まりに参加した。

ある方がこんなことをはなしてくださった。ルカ19章11～27節にこのマタイとよく似たムナのはなしがある。主人は「悪い僕（しもべ）よ、わたしはおまえのその言葉によって、お前を裁く」と告げる。主人は僕がお金を増やさなかったのをせめているのではなく僕が主人を「厳しい方ですから、怖かったのです」というそのことばで裁くといわれている。

主人は、信頼されていないことで僕を裁いたのではないかと言われた。なるほどと思った。たいしたタレント、才能もないのにどうすればいいのだろうとおもっていたが神様はわたしを信頼して多くのものを与えてくださっていた。2倍3倍と考えるのではなく主を信頼して進んでいくことが大切なんだと気づいた。

その方は、「イエスよ、あなたに信頼します」とかいてあるカードを見せてくださったが、わたしも同じカードを持っていたのにその言葉に気が付いていなかった。だいじなことに気づかされたわがちあいだった。「イエスよ、あなたに信頼します」は、わたしの大切ないのりとなった。

## 待降節黙想会の開催のお知らせ 研修委員会

以下のとおり、待降節黙想会を開催致します。

開催日：12月10日（日）待降節第2主日

場所：カトリック池田教会 聖堂

指導：フリオ・トレス神父

（クラレチアン宣教会）

テーマ：『カトリック教会の将来を考える』—新たな形で開かれたシノドスを深める為に—

当日のおおよそのスケジュール

・午前9時～午前10時15分 主日のミサ

（第一講話 主日のミサ中）

・午前10時25分～午前12：00

第二講話・許しの秘跡

尚、第二講話では皆さんから頂きました質問についてシノドスとも関連付けてご指導頂く予定です。

講話の終了後、許しの秘跡の時間を設けますので、よろしくお願ひいたします。

## 池田教会が七五三を祝う 十一月十九日 ミサ後に

三家族四人のお子さんが昔ながらの千歳飴を戴く。お子さんは屈託なく、大人にぶら下がっている。



## 4年ぶりのガレージセール 社会活動委員会

コロナ禍で中止していたガレージセールを10月22日（日）に4年ぶりに開催しました。カール記念館のホールに秋冬物の古着やコートを、新品のタオルや品物はテーブルの上に並べました。また、福島から取り寄せた果物（リンゴ・ブドウ）も販売しました。

当日はお天気にも恵まれ、多くの方が買物に来て下さいました。お陰さまでランチからのカンパ、果物の販売益と合わせて、なんと、56,350円の収益がありました。この収益金は毎月行っている支援募金等と合わせて、年度末に各支援先に送金する予定です。ご協力ありがとうございました。

### 「ドレミの会」からのお願い！

「ドレミの会」はコロナ禍で3年ほど休みましたが、昨年11月より再開したところ、前と変わらず、沢山の障害を持った会員が参加し、家族の方にも大歓迎されました。

やはり彼らには必要な場所だったので、スタッフも勇気をもらいました。

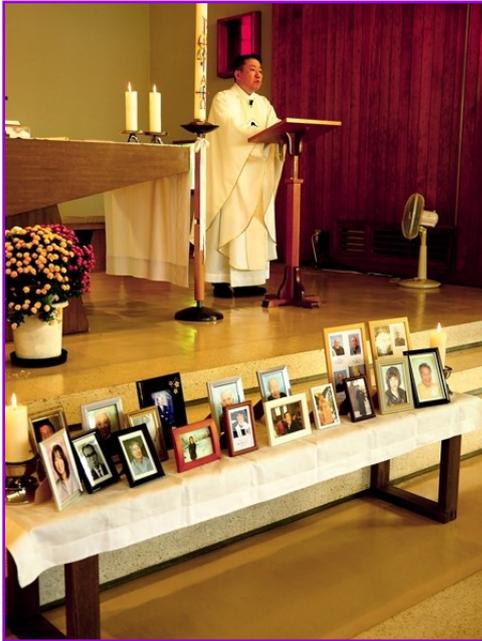
そこで皆様にはお願いです！

12月9日（土）に「クリスマス会」を行います。皆様のお家に眠っている小物を、ご寄付ください。現在30名の会員が、参加しています。年齢は20代から40代、男女は半々です。楽しいクリスマス会が開けますよう、ご協力をお願いいたします。

11月1日より12月初めまで、カール記念館和室にダンボールの箱を置きますので、その中に入れてください。いつも皆様の暖かい応援に感謝しています。

ドレミの会 村嶋

## 死者のために追悼し、 復活を祈るミサが開かれました



11月は故人や終末に関係した記念日が多い。1日が‘諸聖人の祭日’、2日は‘死者の日’、26日は‘王であるキリストの主日’、すなわち、‘終末の主日’であり、‘死者の月’と呼ばれている。

年間第31主日(11月5日)の午後には、池田教会聖堂の聖壇の前に池田教会の交わりの中で一生を終えた人々の写真額が並べられて、その全ての死者が記念され、追悼され、終末に備えてキリストとの交わりの中で復活に与かることを祈るミサが中村克徳司祭の司式で厳かに捧げられた。参加者50余名の中には東京から来られた信徒の姿もあった。

ミサの終了後には多くの参加者が池田教会聖堂に隣接する納骨室で墓参りをされた。

## ノノイ・プラザ神父の近況 その3



ノノイ・プラザ神父様は先月の10月にインドで開かれた2023年度PASPAC大会に参加されました。PASPAC大会とは、御受難会共同体の、一定の地区の集りの事だと思われます。その時の写真の中から、数枚を皆さまとシェアさせていただきます。

ご覧のように、現地インド出身の聖職者だけではなく、いろいろな民族の御受難会員が集まっております。大会の主な目的は研修であったのですが、それだけではなく、現地の方々との文化的な交流が行われた事が見て取れます。講話をなさっている神父様の額をご覧ください。ティラックと呼ばれる額の上の点なのですが、これを描く混合物は額を冷す物質で出来ていて、瞑想、内省の助けとなるものだということです。古くからインドに伝わる文化的、宗教的風習です。ノノイ神父様もティラックを試して見られたそうです。

このような事柄を見ても、人々の心に溶け込もうとする御受難会の宣教方針のおおらかさ、温かさが感じられます。民族舞踊の鑑賞も、そのような文化的交流の一つであったのでしょうか。



## 教会の草花に酷暑の水遣りと樹木に晩秋の剪定で劳わる

今夏の日本の気温は過去と比べると1.5度Cも高かったと報道されて、外出を避け、室内で閉じ籠もざるを得なかった7月～9月を思い出す。10月初頭に1週間遅れて咲いた朱色のヒガンバナに安心して池田教会に来ると、部分的に黄色に変色した芝草に水遣りをする方々や中庭に集中する可憐な地植えと鉢植えの草花が迎えてくれた。最高温度にならない昼前に欠かさずに水遣りがなされたに相違ない。そうしないなら、例年でも強い日差しと少雨では中庭の針葉樹でも一夏で枯れる程なのだからだ。

10月の中旬に、いつものように、池田Ⅱ地区のご婦人から電話で11月1日(水)に池田市シルバー人材センターの職人さんに教会樹木の剪定をお願いした

との連絡が入った。そこで、毎年の恒例になっている剪定された新枝と新葉の袋詰め作業の準備を始めた。「このようなご連絡も今年限り」と例年になくそのご婦人は寂しげであった。

当日は、シルバー職人が切り落とした枝と葉を70リットルのビニール袋に入れる7名の男性シニア信徒と16名の女性シニア信徒の合計23名の方がボランティアとして参加された。9時～12時で32個の重い大袋が東側道路に並べられた。その女性メンバーの一部は中華おこわをメインとするランチを調理し、その昼食は男性信徒が「これが目当てよ」と本音を吐いたほど美味しかった。また、昨年まではボランティアとして参加した80代のシニア、二人、の姿がなく、「移動が辛くなって」が不参加の理由だと知らされた。



左と上の写真にある聖堂の軒より高く成長したモチノキとイヌマキは今夏も成長し続けて、冬季に落葉して聖堂雨樋を詰まらせたり、幹を通しての給水などで樹木に負担を課す。剪定を深めにしたのは老木への労わりのつもりである。

## みんなの談話室

## 『完全版下山事件最後の証言』（平成一九年）—トラウマとしての戦後混乱期

「ご近所の〇〇さんは下山総裁の親族にあたる」、すでに他界後久しいオヤジが晩酌しな

がら話していたのは、たぶん六十年以上も前のことだった。だから、せいぜい小学校四、

五年生だったわたしには、そのとき耳にした下山事件というのは謎めいた判じ物でしかな

かったはずだ。だが、「下山事件」の四文字はいつのまにか記憶に刻まれていたのだらう。

そうでないと、老境に入ったいまごろになってなぜ、文庫本で六百ページにおよぶこの

本を図書館で衝動的に借り出し、一気に読みとおすようなことをしたのか説明がつかない。

わたしが産まれる前年、昭和二十四年七月五日朝、出勤途中に車を待たせたまま日本橋三越本店南口で姿を消した初代国鉄総裁下山定則（しもやまさだのり）は、翌六日未明、常

磐線北千住駅と綾瀬駅の間点で轢死体となって発見された。(10) 五つの部分に切断され、九十メートルにわたって散乱した遺体がどんな状態だったかは想像がつかない。自殺か他殺か、そこに関心が集中した。列車にひかれるまえに、総裁は誰かに殺された（瀕死状態の）あげくに常磐線上に遺棄されたのか、そうではなくて列車と衝突直前まで生きていて、自らの意思で死を選んだのか、警察、マスコミ、はては医学界までも二分する喧々ガクガクの議論に発展した。朝日・読売・警視庁捜査二課・東京地検・東大医学部⇒他殺説、毎日・警視庁捜査一課・慶応医学部+元名大法医学教室教授⇒自殺説、政府までもが有力情報をもとめ百万円（現在の四千万円）の賞金提供をおこなった、という。(179)

令和の現在では「自殺説」が有力となりつつあるとか。自殺したくなる理由は明々白々。

当時誕生間もない国鉄は「誕生からわずか二カ月のうちに、約九万五千人にもおよぶ犠牲（かくしゅ）を余儀なくされた」。(41)

初代総裁最大の仕事は、国鉄合理化のため、首切りを労組に宣告することで、その心労から総裁には事件直前「奇行」が目立っていたともいう。(60)

だが他殺説も強い。他殺説をとる本書は、総裁が迎えたかもしれない（と著者が考える）ショッキングな最期を具体的に紹介している——三越から数人の男たちに誘拐拉致された総裁は、監禁中に暴行を受け血管から血を抜かれて失血死したのではないか、というのである。黒幕に東北地方の国鉄電化工事、ダム建設などの公共工事で利権を手にはできず、大損害を被って総裁を恨んでいたある人物だろう、と最後に示唆までしている。(584)

ここまでくると、ドキュメンタリーというよりも推理小説なのだが、総裁殺害の真犯人捜しは、あえて言うとな本書の目的ではないようにもみえる。そうではなくて、事件に関連して残された証拠を頼りに、インタビューや推論を続けるなかで、戦前から戦後混乱期に至る日本社会や政財界で活躍

（暗躍）した著名人が、下山事件との関わりで、どう動いていたのか、その一瞬の姿をスケッチすることにこそ、筆者の関心は移っていったようにみえる。自身はもちろんのこと、著者柴田哲孝（しばたてつたか）一族は「大叔母、母親などの血族がある意味で下山事件の当事者」(16)にあたるらしい。事件とは浅からぬ縁をもつ人たちなのである。そうした一族の暮らしぶり、膨大な資料、それにジャーナリストとしての人脈を伝って対面した数十人にのぼる重要関係者の証言をもとに、当時の錯綜した社会情勢とその裏でうごめく昭和の神話的存在たる有力政治家や経済人（右翼の大物田中清玄、ロッキード事件で名をはせた児玉誉士夫、吉田茂、佐藤栄作、岸信

## アルファ・コースの思い出

T.M.

島神父様のご指導のもとで、第1回のアルファ・コースが開催されたのは、2008年4月19日でした。神父様を初めとして24名の方々の参加で始まり、月の第1、第3土曜日の10:00から13:00までと予定されました。昼食は女性有志の方々が準備してくださいました。心のこもったお料理のおいしかったこと！今でもその光景が甦ってきます。プログラムは、「キリスト教とは」、がテーマで、ニッキー・ガンベルさんのわかりやすい解説のDVDで始められました。皆さんの緊張感は次第にほぐれてゆき、暖かい雰囲気のもとで進行してゆきました。

参加者の中に、私の弟 阿久津 清が入っていました。弟は私の信仰は認めていましたが、神様を信じることはできないと申しておりました。しかしアルファ・コースへの出席回数が増えるにしたがって信仰に興味を持ちだしました。一年が終わるころ、イエス・キリスト様の存在を口にするのが多くなり、新聞にカトリックの記事が掲載されるとすぐに切り抜き、私にくれました。無神論者であった弟が受洗したい意向を伝え、その後洗礼のお恵みをいただくことになりました。日生中央教会の共同体では、たくさんの方々が友人となってくださいました。独り暮らしの弟はとても嬉しかったと報告してくれました。日生中央教会の社活では釜ヶ崎のお手伝いや教会の電話当番、一人暮らしの方の教会への送迎など、積極的にかかわっていたようです。

2018年に右肺癌を発症し、その後左肺野部を侵され、そして頸椎へ転移して激痛が襲いかかりましたが、私に苦しみを訴えることはほとんどありませんでした。2021年10月21日、自宅療養しておりました弟は、私の訪問を待つことなく、誰からも看取られることなく、命が断たれました。「なんで待っていてくれなかったの」と私を頼っ

ておりました弟の死に、何もしてやれなかった私のふがいなさを思うと、あふれる涙をこらえることができませんでした。

後日、日生中央教会において、中村神父様の司式のもとに葬儀ミサが執り行われ、たくさんの方々が参列してくださいました。中村神父様は弟との出会いを喜んでくださり、また暖かいお話をしていただき、家族の喜びは例えようもありませんでした。神さまに召されて4年の月日が経ちました。

弟を信仰へ導いてくださったアルファ・コースには感謝しかありません。

### 俳句 二句

再会を果たせぬ知らせ

冬すみれ

斃れ伏す戦下の民や

朴落ち葉

川西地区

S.T.

( みんなの談話室 了 )

### 今月の表紙の絵について

表紙の絵は、「眠る幼子といる聖母」という、43×32センチの小さなテンペラ画である。イタリアのルネッサンス期の巨匠、アンドレア・マンテーニャ（1431～1506）の初期の作品で、1465～1470年頃に描かれた。個人的な祈禱のために制作されたもののようで、現在はベルリン美術館に所蔵されている。

黒い背景の中で、錦織のマントにぐっすり眠る幼子イエスを包み込み、両手で我が子をそっと支える聖母の、万感の思いをこめた瞳には胸を打つものがある。神の子を育てるといふ重い責任感、ひたすら我が子をいとおしく感じる心が、そのやさしく思いつめた視線に表されている。聖母の頭上に光輪がないので、なおさら母親の愛情がじかに伝わってくる。

**宝塚黙想の家からのお知らせ**

■ 日帰り黙想会 10:00~15:30  
12月21日(木) 指導: 染野 治雄 神父  
12月22日(金) 指導: 山内 十束 神父

■ 一泊黙想会  
12月15日(金) 17:00~16日(土) 15:30  
指導: 染野治雄 神父

■ カトリック教会のカテキズム  
12月06日(水) 10:00 ~ 12:00  
12月20日(水) 10:00 ~ 12:00  
指導: 染野 治雄 神父

■ 聖書の基本  
12月06日(水) 10:00 ~ 12:00  
12月20日(水) 10:00 ~ 12:00  
指導: 山内 十束 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは  
「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797(84)3111

**編集後記**

今年の気温の変化についていけないのは私たち人間だけでなく、植物や野生動物も同じようだ。街中はクリスマスツリーが飾られて、年の瀬も近いのになんだかまだ秋のような変な気分になる。

木々のほうも、紅葉して良いのか悩んでいるのか今年はまだらだと気象予報士さんが言っていた。野生動物も暑い夏を乗り越えたのに、餌となるものが少なくて、しんどいなあと思っているのかもしれない。

戦闘や自然災害などたくさんの人の血と涙が流れているけれど、どうかクリスマスだけは人も動植物もみんなが平和に過ごすことが出来たら良いなと毎年願います。

Ana